

たけとりものがたり
竹取物語

むかし ところ す
昔、ある所におじいさんとおばあさんが住んでいました。おじいさんは
やま たけ と き もの つく う
山から竹を取って来て、いろいろな物を作って、売っていました。

ひ ふしぎ ひかり だ たけ み き
ある日、おじいさんは不思議な光を出している竹を見つけて、切りました。
なか ちい おんな こ こども
中には小さな、かわいい女の子がいました。子供がいないおじいさんとお
ばあさんはとても喜んで、女の子に「かぐや姫」という名前をつけて、大切
そだ ひめ おお
に育てました。かぐや姫はどんどん大きくなって、とてもきれいになりました
た。

うつく ひめ き おとこ けっこん もう こ き
美しいかぐや姫のことを聞いて、男たちが結婚を申し込みに来ました。
ひめ けっこん ひめ おとこ
「どうぞ、かぐや姫と結婚させてください。」おじいさんはかぐや姫に男た
き も つた ひめ けっこん い
ちの気持ちを伝えましたが、かぐや姫は結婚したくないと言いました。

にん おとこ ねが さが
しかし、5人の男があきらめなかったので、「わたしがお願いしたものを探
き ひと けっこん い おとこ とお くに い
して来た人と結婚します。」と言って、男たちを遠い国へ行かせました。か
ひめ おとこ たの もの めずら さが たいへん
ぐや姫が男たちに頼んだ物はとても珍しくて、探すのが大変でした。

ほとけ いし はち さが い ひがし うみ やま
1人はインドへ仏の石の鉢を探しに行きました。1人は東の海にある山
い ほうせき き えだ と こ
へ行って、宝石でできた木の枝を取って来なければなりませんでした。1人
ぜったい も かわ きもの さが ちゅうごく い りゆう
は絶対に燃えないねずみの皮の着物を探しに中国へ行きました。1人は竜

くび たま も めずら かい と こ
の首の玉を、1人はつばめが持っている珍しい貝を取って来なければなりま
ねんす たの もの も
せんでした。しかし、3年過ぎても、だれも頼んだ物を持ってくることができ
むり びょうき おとこ し おとこ
ませんでした。無理なことをして、病気になった男や死んでしまった男も
いました。

てんのう ひめ す つま おも なんかい てがみ
天皇もかぐや姫が好きになり、妻にしたいと思いました。何回も手紙で
きも つた い
気持ちを伝えましたが、「はい」と言わせることはできませんでした。

ねん す なつ ひめ まいばんつき み な
そして、また3年が過ぎて、夏になりました。かぐや姫は毎晩月を見て泣
くようになりました。

ひめ
「かぐや姫、どうしたの？」

せかい もの つき せかい き つぎ
「わたしはこの世界の者ではありません。月の世界から来たのです。次の
まんげつ ばん つき かえ かな
満月の晩に月へ帰らなければなりません。それで、とても悲しいのです。」

てんのう ひめ かえ
びっくりしたおじいさんは天皇に「かぐや姫を帰らせないでください」と
ねが まんげつ よる てんのう へいたい いえ まも
お願いしました。満月の夜、天皇はたくさんの兵隊におじいさんの家を守
よなか いえ まわ ふしぎ ひかり
らせました。しかし、夜中に家の周りは不思議な光でいっぱいになって、
へいたい なに み つき くるま むか き
兵隊たちは何も見えなくなりました。月から車が迎えに来たのです。かぐ
ひめ の つき くるま そら と い
や姫が乗った月の車は空を飛んで行きました。

ひめ かえ おく もの
ところで、かぐや姫は帰るときに、おじいさんたちに贈り物をしました。
ふし くすり かな
それは「不死の薬」でした。しかし、おじいさんとおばあさんはとても悲し

んで、^{くすり}薬を飲まないで、^し死んでしまいました。^{てんのう}天皇はかぐや^{ひめ}姫がいない^{せかい}世界

で生きていても、^い意味がない^{いみ}と思っ^{おも}て、^{たか}高い^{やま}山の上^{うへ}で^{くすり}薬を^や焼かせました。

それから、その^{やま}山は「^{ふし}不死の^{やま}山」から「^{ふじ}富士の^{やま}山」、そして、「^{ふじさん}富士山」とい

^{なまえ}う名前になったのです。